

8. 家電



業界動向

国内市場動向～白物家電が好調を維持

国内の家電出荷額をみれば、黒物家電の代表格となる薄型テレビは依然低水準に止まっていますが、白物家電では家事の「時短」ニーズやシニア世帯の増加等を背景に利便性の高い高付加価値品の販売が増加し、2018年は22年ぶりの高水準を記録するなど好調に推移しています。

海外市場動向～グローバル需要は増加傾向が継続

中国では景気減速を背景とした消費マインドの低下や不動産市場の成長鈍化等から家電需要は若干弱含んでいますが、先進国での底堅い個人消費や新興国での家電普及率上昇を背景に、グローバル需要は増加傾向で推移しています。こうしたなか、グローバル大手各社は成長市場の取込みに向けた開発競争に鎬を削っており、日系メーカーも現地ニーズを踏まえたローカルフィット製品の展開を加速させています。

今後の見通し

製品開発動向（ハード面）～AI・IoT対応とローカルフィット製品の2軸展開

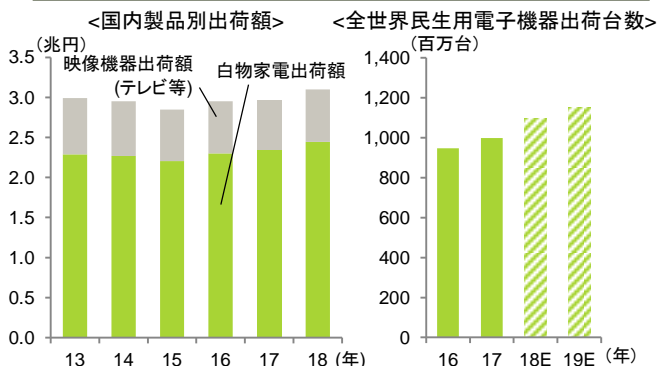
家電市場では、先進国を中心に生活の豊かさを実現する高付加価値品へのニーズが高まっていくと予想され、国内大手各社はAI搭載製品の開発やIoTへの対応を加速させています。また、成長が見込まれる新興国需要の捕捉に向けて現地ニーズを踏まえた製品展開を進めており、今後も、AI・IoTに対応した先端品とローカルフィット製品における開発動向が注目されます。

ビジネスモデルの変革（ソフト面）～リカーリング型ビジネスモデルの展開

BtoC主体の家電製品は景気影響を受け易く、またグローバルベースで厳しい競争に晒されていることもあり、大手各社では安定的な収益確保に向けて、リカーリング型のビジネスモデルの構築を進める動きが広がっています。今後は、従来の製品売り切り型から継続的なサービス収入確保に向けた仕組み作りが進むとみられ、この過程で業種の垣根を越えた連携が進む可能性も想定されます。

図表1 家電市場推移

～国内は白物が牽引、海外需要も底堅く推移



出所: (左) 日本電機工業会、電子情報技術産業協会より弊社作成
(右) Gartnerリサーチより弊社作成。Semiconductor Forecast Database, Worldwide, 4Q18 Update, Nolan Reilly et al., 24 December 2018

図表2 世界の家電売上高上位10社(2017年)(注)

～中韓メーカーが上位

順位	企業名	国	売上高 (億円)
1	サムスン電子	韓国	47,906
2	美的集団	中国	41,828
3	LG電子	韓国	40,249
4	海爾集団	中国	33,168
5	格力集団	中国	25,938
6	パナソニック	日本	25,884
7	ワールプूल	米国	24,016
8	フィリップス	オランダ	19,294
9	ソニー	日本	18,689
10	エレクトロラックス	スウェーデン	16,734

(注)サムスン電子、LG電子、パナソニック、フィリップス、ソニーは白物家電、AV機器を含むセグメント売上高
出所: 各社アニュアルレポートより弊社作成

図表3 国内大手各社の取組み動向

～AI・IoT対応、リカーリング型の取組みを加速

時期	各社のAI・IoT対応 ・リカーリング型ビジネスの取組み
18/1	三菱電機がスマート家電の機器連携技術を開発
18/2	パナソニックが有機ELTVの定額制サービスを開始
18/6	シャープがAIを搭載しクラウドに対応したTVを発表
18/6	パナソニックがノートPCの定額制サービスを発表
18/10	ソニーがスマートホームサービス「MANOMA」を発表
18/11	パナソニックが21年迄に全家電製品のAI搭載を発表
18/11	パナソニックがくらしの統合プラットフォーム「HomeX」を発表
18/11	シャープが19年度製品の半分をAIoTにすると発表
19/1	ソニーが「aibo」による見守りサービスを発表

出所: 各社プレスリリースより弊社作成